

友の会通信 2009

No.2 (通巻55号) 2009.7.25発行

■ 目次	「第1回 新潟県内博物館等友の会サミット」を開催／第1回 新潟県内博物館等友の会サミット宣言 …………… 1
	会員随想『福海観音菩薩』 …………… 2
	会員の研究ノート『次郎丸・高德寺の中世板碑について』 …… 3
	ご案内～博物館＆友の会 夏の行事～／サークルだより『白河荘を歩く会』『“花”の会』／編集後記 …………… 4

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1(阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL0250-68-1200 FAX0250-68-5016 web版友の会通信<http://wind.ap.teacup.com/togo/>

仲間が集まれば何かが始まる! 「第1回 新潟県内博物館等友の会サミット」を開催

5月23日(土)、新潟県内博物館等友の会連絡会に加盟する友の会の仲間が阿賀野市立吉田東伍記念博物館に集まり、第1回サミットが開催されました。

吉田東伍の生家を会場とした午前の部、緊張感のある開会式、各会の自己紹介スピーチに続き、オープニング・サロンコンサートでは当会の活動紹介も兼ねてTOGO Museum Ensemble (TME) が演奏。「港」「ふるさと」「千の風になって」を全員で合唱し、参加者約100名の心が一つになり、和やかな空気が広がりました。

午後の部は博物館研修室に会場を移し、石油の世界館友の会と信濃川大河津資料館友の会の活動紹介、阿賀野市立吉田東伍記念博物館館長による歓迎講演、そして「友の会の連携を深めるために－現状と課題から－」と題されたパネルディスカッションへ。パネラー陣と一般参加者も多かった会場からの活発な発言により大変盛り上がりました。会員数の拡大や魅力ある行事の立案、博物館(行政側)との関係の構築など、今後の友の会連絡会や第2回サミットで

考えていきたい課題も提起され、熱の入った議論となりました。

最後にサミット宣言を採択。初対面の参加者が集うサミットでしたが、キーワードはやはり宣言にもある「楽しむ」こと。これがなければ友の会の活動は長続きせず、参加する意義も見出すことはできません。懇親会の席での尽きない談論の中でもこのことを強く感じました。設立11年目を迎えた当会にとっても主管団体という大役を経験し、「楽しく」一回り成長することができました。今後の友の会の輪の広がりがとても楽しみです。(事務局)



参加者による記念撮影

第1回新潟県内博物館等友の会サミット宣言

1. 私たちは、博物館・美術館・展示館とともに、急がず、焦らず、無理をせず、楽しく集うことをモットーに活動します。
2. 私たちは、相互に情報交換を行い、それぞれの組織の良いところを学び、自らの活動に活かします。
3. 私たちは、さまざまな文化・科学・芸術に関心を寄せ、楽しく学び、生活を豊かにし、そして社会への還元を考えます。

以上、宣言いたします。

平成21年5月23日

新潟県内博物館等友の会連絡会

阿賀野市立吉田東伍記念博物館友の会 信濃川大河津資料館友の会 石油の世界館友の会
十日町市博物館友の会 トミオカホワイト美術館友の会 なじよもん友の会
新潟県立美術館友の会 新潟県立歴史博物館友の会

福海観音菩薩

(東蒲原郡阿賀町津川)

会 員 丸 山 弘 (まるやま ひろし)

私は新潟県石仏の会の会員でもあります。昨年6月、同会の会員の皆さんと東蒲原郡阿賀町方面へ石仏探訪を行いました。そのなかで、大変興味深かった石像について思いつくまま述べてみたいと思います。その石像は「福海^{ふくかい}観音菩薩」(阿賀町指定文化財)と言われており、不思議な話が伝えられています。

「福海観音菩薩」は、阿賀町(旧津川町)の中心市街地にある新善光寺境内の一角、新たに建てられた観音堂の中央部に安置されています。拝見すると、高さ2メートルを優に超える堂々たる体躯の浮き彫りされた立像で、見るからに周囲を圧倒しており、お顔立ちも極めて凛々しく、スッカリとした感があります。「福海」という名前の由来は不詳ですが、海の彼方の西方浄土・極楽浄土の菩薩信仰から、海から福を呼ぶことからか、などと勝手な想像をしています。

不思議なことに、この石像は上部と下部が腰の部分で2つに割れ、組み合わさって立っています。さらに上半身と下半身の色が違い、上半身だけが薄い黒色をしています。左手には蓮華を胸に抱き、右手は下げて開かれています。何とその手のひらは真っ黒で艶々して光っています。観音菩薩は33に変化して衆生の苦難を救うとされることから、信心深い地域のあらゆる人たちが様々な苦難からの解放を願い、長期間、この手を触り続けたのでしょうか。

石像の背中面には文字が刻まれています。「元禄六年五月廿八日」(1693年)、「越前三国」と、彫られた日時と場所が読み取れます。また、二人の願主の氏名もわかり、この石像が彫られた理由が推察されます。新善光寺の文字も明確に読み取れます。なぜ、この石像に遠国である福井県三国や新潟県阿賀町の新善光寺の文字が刻まれているのでしょうか。文面から、越前三国のお寺(西光寺と伝えられます)の住職が越後津川の新善光寺へ移られたので、二人のお弟子さんが願主となり、越前三国でお世話になった師匠である住職の今後の無事をお祈りするため当地の石工に彫らせて石

像の背面に文字を刻み、住職の新勤務地へ送ったのではないかと考えられます。

実は、この石像は新潟市在住の古老の話(『新潟の町 古老百話』、新潟日報事業社、昭和49年発行、平成17年復刻)によりますと、もともと新潟市の下町の四ツ屋町(中央区)の日和浜下の浜辺に祀られ、長年にわたり、当地で地域住民の大切な観音様としてお参りされてきたものです。上半身は信濃川河口(薄黒いのは泥中に埋もれていたためでしょうか)から、下半身は日本海の日和山沖から、いずれも同じ漁師の網で引き揚げられました。石像の輸送は当時、陸路は難しく、舟運を用い、越前から日本海を通って越後へ入り、さらに信濃川をさかのぼり、津川の新善光寺へ運ぼうとしました。しかし、途中、新潟湊付近で船は難破、石像は二つに割れて、それぞれ海中・河中に落下したものと伝えられます。

平成元年、新潟市の篤志家が一念発起し、この石像に刻まれた背文字の内容を実現すべく、最終目的地である津川の新善光寺に私財で新しく観音堂を建てられ、300年もの永の旅路を終わらせ、石像の終の住処としたものです。これを受けて新善光寺でも、この石像の関係者の間で盛大な開眼法要を執り行いました。現在も毎年、背面に刻まれた石像の誕生日である5月末日、観音堂で関係者が一同に会し、住職の読経などが粛々と行われています。余談ですが、この石像の話を教えてくれた友人も新潟から毎年参加されているそうです。

津川の里に落ち着いて20年余りが過ぎました。石像は今何を思っているのでしょうか。“石像のみぞ知る”です。3世紀300有余年に渡る石像の運命について壮大なロマンを感じます。大勢の人たちが関係を持たれたのに違いありません。石像からは色々な思いが巡らされ楽しい限りです。

(付記) この「福海観音菩薩」については、杉崎民栄氏が東蒲原郡郷土誌『阿賀路』第28集(平成2年)に詳述されていますのでご参照ください。

次郎丸・高德寺の中世板碑について

(阿賀野市次郎丸)

会員 小 林 弘 (こばやし ひろし)

新潟県の中世板碑は、13世紀末頃から建立され、14世紀代～15世紀初めには数多く建立されるようになりました。阿賀北で最古の紀年銘付中世板碑は出湯の華報寺境内に安置されている六字名号塔で、永仁7年(1299)の銘があります。阿賀北一帯に分布する板碑は川原石に梵字を彫りこんだものが多く、紀年銘を刻み込んだものも幾つか認められますが数は少ないです。華報寺の永仁の紀年銘以外は全て14世紀代の年号です。

板碑を建立するには、石の運搬費用、石工や僧侶への謝礼などそれなりに経費がかかると思われる、武士や、その家臣と家族、有力農民、在家など、一定の財力をもった人が、死後の極楽浄土を願い追善あるいは逆修供養の為に建立したと考えられます。建立した階層の一端をうかがえる例として、栗島の文和3年(1354)の紀年銘板碑2基があり、施主とみられる良阿弥陀佛、入阿弥陀佛の名前が彫られています。良阿弥陀佛、入阿弥陀佛なる人物を特定することはできませんが、地方武士、或いは先達、在家のいずれかの人々により造立された可能性が指摘されています(中野1988)。

村上市山田の「貞治第三甲辰七月二六日逝去阿妙」と彫られた板碑では、阿妙は、武家の小泉莊色部系で、色部長倫の後家であり、実在の人物で1364年に没しました。そして、35年後に追善供養のため、応永6年(1399)銘入りの追善供養の中世板碑が建立されたようです。今回紹介する板碑も、建立目的や施主は不明ですが、財力のある有力者が建立したものと推定されます。

高德寺は五頭山西麓に南北に連なる低丘陵のひとつ、真光寺山の南端付近の次郎丸集落にあります。本堂前と墓地脇の地藏堂隣に各々1基ずつ中世板碑があります。本堂前のものは、脇に説明板があり阿弥陀三尊を表す中世板碑の説明がされています。今回紹介するものは、本堂裏の地藏堂脇にある中世板碑で、近くに説明板は無く、補足する意味で紹介します。最初からこの位置にあったのかわかりませんが、そう遠くない場所からこの場所に搬入された可能性があります。板碑は梵字

の「ア」で胎藏界大日如来一尊を薬研彫で彫り、その下に7弁の細長い蓮弁を持つ蓮台で、その下には反花かえりばなが彫ってあります。梵字の「ア」を彫った板碑は白河荘内では希少で、新発田市や村上で類例はありますが大日如来の中でも金剛界大日如来「バン」が主体でありやはり、希少な存在です。

同じような蓮台で、7弁の蓮弁が長いという特徴を持つ板碑の類例が胎内市関沢にあり、この板碑は鎌倉時代末の嘉暦2年(1327)(水澤1997)の紀年銘があります。他にも新発田市貝屋の宝蔵寺跡板碑など、紹介した高德寺の板碑をはじめ、どれも鎌倉時代末の建立と思われます。

14世紀初期の鎌倉時代末頃から南北朝時代になると、阿賀北では他に多くの板碑が建立され、五頭山華報寺周辺をはじめ新発田市五十公野山周辺、栗島、村上周辺で多数の板碑が建立されたようです。特に曹洞宗五頭山華報寺は、当時海満寺と呼ばれた真言宗寺院で、五頭山信仰と関連する伝・高德寺跡の法華山や、出湯周辺は一大霊場であったようで、今も当時の石造物が山中で確認できます。高德寺の板碑は当時の信仰の一端をうかがえる貴重な資料です。

【参考文献】

中野堂任(1988)『忘れられた霊場』平凡社

水澤幸一(1997)「揚北の紀年銘板碑」『新潟史学』

第39号 新潟史学会



高德寺の中世板碑

ご案内

～ 博物館&友の会 夏の行事～

8月30日(日)まで

夏休み子ども博物館を開催中!

恒例の夏休み子ども博物館が今年も開催されます。阿賀野市内の小中学生なら誰でも無料で入館できます。手続きは受付で名前を記入するだけです。ご来館、お待ちしております!



新指定文化財(県指定)展 2008-09

～県民のお宝になった阿賀野市のたからもの～

を開催します!

新しく新潟県指定文化財となった「上野林遺跡群の旧石器」と「齋藤家文書」を展示します。

会 期: 8月1日(土)～8月30日(日)

入館料: 一般300円(通常入館料のみ、友の会会員は無料)

星空への招待 2009

ペルセウス座流星群観望会

寝転がりながら星空を見上げると身体も楽でゆっくりと楽しめます。敷物やタオルケット、枕などの持参をオススメします。

日時: 8月12日(水) 午後7時～午後11時ごろ
(荒天の場合は中止)

会場: 城ノ内交通公園内(安田城跡)

とんとむかしを聞く会

夕涼みがてら、夜の博物館で昔話の語りを聞く、恒例の友の会行事です。

日 時: 8月20日(木) 午後7時～午後8時30分

※総会時にお知らせした日程から変更になりました。

会 場: 阿賀野市立吉田東伍記念博物館

おはなし: 小内フミさん ほか

参加費: 無料



サークルだより

白河荘を歩く会

5・6月例会

～阿賀野市とその周辺の「天地人」を歩く～

5月19日(火)は17名で新発田市方面(水原満家の首塚跡、正法寺石仏群など)、6月25日(木)は14名で水原地区(下条館ほか)を歩きました。車に乗ってでは気付かない、路傍の風景と史跡を歩く醍醐味を楽しんでいます。秋は阿賀野市立吉田東伍記念博物館で開催される新潟県立歴史博物館移動展覧会への協力などの活動を行います。日程は「友の会通信」等でお知らせします。

8月例会のご案内

8月20日(木) 13:30～16:00

「新指定文化財展」見学会

会場: 阿賀野市立吉田東伍記念博物館



下条館(水原地区)にて

“花”の会 ～ 第2回『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』鑑賞会 ～



6月4日(木)午後、参加者9名で、第2巻「入門・狂言の技と心」(企画・発行: 株紀伊國屋書店、製作: 株ボルケ)と前回の復習で第1巻を研修室の大型スクリーンで鑑賞しました。9月以降に第3巻以降の鑑賞会を計画中です。年度末の『世阿弥十六部集』発刊100周年記念講演会の準備も進めています。

友の会伝言板 事務局より

- ① 友の会サミットやサークル活動など活動情報満載の「web版友の会通信」(<http://wind.ap.teacup.com/togo/>)をご覧ください。
- ② 会費を納入された方に会員証を同封しました。会費未納の方はお早めをお願いします。
- ③ 9月6日(日)まで新潟県立歴史博物館でNHK大河ドラマ特別展「天地人 直江兼続とその時代」が開催中です。秋の移動展覧会の予習にぜひご鑑賞下さい。

編集後記

最近、事務局の打ち合わせで博物館へ行くと、調べもので来館する子供たちによく会います。吉田東伍の少年時代の筆跡が見つかったというニュースもあり、6月30日まで博物館で公開されたその筆跡と子供たちの姿が重なりました。研究の進展を知ること、未来の吉田東伍と出会うことも、博物館通いの楽しみの一つです。(H・T)